

プログラム

第3コース：情報2 - ファーマシューティカルケアの実践に向けて -

講師：長崎大学薬学部 中嶋幹郎教授、和田光弘助教授

ファーマシューティカルケアの概念から安全かつ有効な薬物療法の継続性を維持するには、常に患者さんや医療者とコミュニケーションをとりながら、医薬品の効果や副作用の評価を行い、処方へのフィードバックにつなげていく必要があります。そのためには患者さんや医療者から信頼される薬剤師になることが必須です。18年度の情報1では、「薬剤師に必要な医療情報の入手と発信のために」をテーマに、情報を取り扱う際のコンピュータやインターネットの活用法を学ぶ演習を行いました。そこで19年度の情報2では、実際に臨床で情報の収集や提供を行う場合の「現場で使える効果的なコミュニケーションスキル」と「現場で役立つ問題解決法」の理解と修得を目指し、少人数での演習を行います。

第1回 「コミュニケーションスキル1」 5 / 26 (土)

円滑なコミュニケーションに必要な基本的な知識・技能・態度についての解説を行い、対人コミュニケーションの基本姿勢を学びます。対人コミュニケーションの基本技法（沈黙と促し、質問、傾聴）についてペアによる演習を行います。（担当：中嶋幹郎）

第2回 「コミュニケーションスキル2」 6 / 2 (土)

対人コミュニケーションの基本技法（観察、確認、繰り返し、事柄の明確化）についてペアやグループによる演習を行います。医療面接時におけるコミュニケーションの留意点についての解説を行い、その応用例についてモデリングとペアによる演習を行う予定です。（担当：中嶋幹郎）

第3回 「PBL：薬剤師によるケア計画」 6 / 16 (土)

PBL (Problem-Based Learning) 形式にのっとり、グループ内で与えられた患者情報から問題点を抽出し、その解決方法を議論します。薬剤師として疾患毎にケア計画を立案することが最終の到達目的です。（担当：和田光弘）